

ぬくもり

発行元 可児市人権啓発センター
可児市下恵土5188-1
(可児市総合会館分室内)
電話 (0574) 83-7990
FAX (0574) 83-7980

—可児市人権啓発センターだより—



仲よく花だんの手入れをする土田小学校の児童たち

花のたねをまいたんだ

土田小学校 四年生

竹田 有希

五月五日 天気(晴れ)

今日、お母さんといっしょにたねをまきました。まいたたねの名前は、ペニチユア、あおじそ、なでしこのたねです。3しゅるいのたねは、どれも小さかったよ。トレイに土を入れて、水をしみこませて、たねをばらばらとまきました。そうやって、もう一つのたねもまこうとしたら、お母さんが、「三列にゆびで線を引いて、まいたほうがいいよ。」と、おしえてくれました。3つのたねがまきおわると、お母さんが、新聞紙をビリビリとやぶりはじめたので、なにをするのか見ていたら、トレイの上に新聞紙をかぶせて、その上から水をかけました。トレイのそこには、あなを竹くしでいくつが最初にあけたよ。本葉が出てきて、大きくなったら、プランターに植えかえるんだって。早く大きくなって、きれいな花をたくさんさかせてほしいです。

センター設立十年目を迎えて

前副会長 高木嘉彦

可児市は平成二年、法務省及び人権擁護委員連合会の全連、中連、県連等から人権モデル地区に指定され、一年間全市民あげて市内全域に於いて積極的な人権啓発活動が行われました。このモデル地区活動を通じて市の間に人権感覚の深まりが見られるようになりましたが、今一步市民に自由人権思想の浸透性が十分でない部分も見られ、モデル地区活動から継続した人権啓発を進める必要ありとの観点から全国でも例を見ない市独自のセンターの設立に至ったのであります。

当時可児市は急激な人口の増加により八万を超える人々が生活する都市となり、これに伴い私達を取り巻く社会は個性化、高齢化、国際化等が進み、人と人との結びつきは希薄化の様相を呈しています。

我々は一人でも多くの人々が様々な分野の人権問題について自らの人権感覚を高め人権尊重

の輪を広めていくことを目標として、平成三年十二月世界人権週間中に可児市人権啓発センターを設立し総会を行いました。

市内四十余の団体から約三百名の推進員を委嘱し広報、生活、教育、同和、労働、国際の六つの部会を設け「はぐくもう思いやりの心」を基本テーマとして啓発活動を展開しました。

その後、事務局のご努力により活発且つ積極的な活動がなされておりご同慶の至りに存じます。十周年の節目に際し、役員の一斉を図り新役員の皆様のご力ですべての市民が自由と平等であり、明るい楽しい家庭生活、日常生活、社会生活が過ごせるよう啓発推進活動に一層のご活躍を期待すると共にセンターの益々のご発展を祈念申しあげます。



去る五月十八日総合会館分室で高齢者の皆さんにお集まり頂き、本年度第二回の「ぬくもり懇話会」を開催しました。どなたも高齢を思わせない気力と充実感に満ちあふれたお話を伺うことができました。以下はその時の要旨です。

日頃心がけていること

- ★内にこもらず、自らを外に向ける努力をしています。
- ★「嫁と姑」については、思いやりの気持ちを大切にしています。
- ★健康には、格別気を使っています。

- ★「老いては子に従え」といいますが若い者へ飛び込むように心がけています。
- ★「親しき中に礼儀あり」、度が過ぎないようにと心がけていますが、つい言い過ぎてしまいます。

若い人達へ

- ★「古い考え」と一笑に付さず古老の話に耳を傾けてほしい。
- ★経験から生まれた人生の知恵にも学ぶこともありませう。姿を学んでほしいものです。

日頃考えること

- ★この頃の凶悪犯罪に思いを馳せる時、核家族や小児化現象は良くないと思えますね。
- ★大家族の中の子育ては、今の時代では特に大切なことです。
- ★幼児期の教育のあり方に、今更ながら疑問を持ちます。
- ★出会い、ふれあいから生きる力をもらっています。感謝！



ご出席のみなさん

大西冴子さん 村瀬英子さん 三宅 満さん
堀 琴子さん 矢木貞子さん 渡辺健二さん
日比野さかあさん 事務局 (渡辺・田中)

金子 正 味

塾から帰って来た娘が「今日ねえ、お母さん！算数の勉強でねえ、「この程度のこと分らんで、どうにもならんなあー」って言われちゃった。」「隣に居たA子ちゃんも涙出してた。」
 「でもねえ！私達分かんから塾へ行くんだもんねえ！母さん！」
 「そうねえ：それでどうだったの、分かった：？」「うん分かった、できるようになったけどお：」「じゃあよかったじゃないの：先生もきつと、ほかに、いやなことでもあったのかもねえ」
 少しばかり口元を尖らせ、どこか不満げに訴えている子どもを前に、どのように返答したらよいものか、一瞬戸惑いました。が、一緒になって相手を責めることより、この子の心を和ませることが大事ではないか思いました。そして次の日、何んのこだわりもなく、塾へ出かけ、元気に帰って来た姿を見て、ほっと胸をなでおろしました：。

これは四年生の子どもを持つ、ある母親との雑談の中のひとこまです。

子どもだけでなく、誰しも相手の不注意な言動には、憤慨したり、傷ついたりすることがあります。そんな時いつも冷静さを忘れず、さりげない応対と、屈託のない笑顔で受け応えられたお母さんに、なぜかほのぼのとした思いでいっぱいでした。

近頃の世相には、大人も子どもも、寛大で相手をゆるしいれる心が余りにも、少なくなつたように思えてなりません。私達は、いつも明るい気持ちで、寛容の心を育て、何事も周囲から翻弄されることなく、自己を見つめて歩きつづけたいものです。

「大人が乱れると子どもが荒れる」どこかで聞いたこの言葉を思い出します。大人社会のさまざまな所行は、心してふるまいたいものです。敏感な子ども達は、決してそれを見逃しはしないのですから：。



声・声・声

十数年前、主人の仕事の関係でヨーロッパの片田舎に家族中で三年間滞りました。言葉も通じず、生活習慣も異なり、赴任前は大変に不安でしたが、行ってみたら三年間何とか過ごせました。そして、帰国した今となっては楽しい思い出となっております。

その国は多民族国家で人種のルツボ、モザイク国家と言われていました。実際に、肌の色、目の色が違う人々の間で生活してみても感じた一番大切なことは、「信頼関係の構築」です。言葉ができることも大切です。しかし、それ以上に大切なのは「信頼」なのです。お金も物も必要でしょう。でも、お互いの「信頼」があれば、やっていけると体感しました。そして、その信頼は、ペラペラ外国語をしゃべることや、物をプレゼントしたりすることではなく、毎日の生活の中での「あいさつ」やちょっとした「心配り」によってコツコツと積み上げていくしかできないものだと思います。

現在、多くの外国人が我が国にいますが、信頼を築くための営みを個人のレベルで積み上げていくことが、人権尊重の基盤になると思っています。

(阜ヶ丘 日比野銘子)



短 信

△衝撃的なニュースに明け暮れる昨今ですが、とりわけ少年の凶悪事件や児童虐待には「なぜ」「どうして」と考えさせられてしまいます。

△同時に「我が子は」「我が孫」はと。

△今こそ教育百年の計が日本人一人一人に必要な時ではないでしょうか。今からでも遅くはないと考えますが：。

平成12年度の可見市人権啓発センターの紹介

役員の皆さん (敬称略)

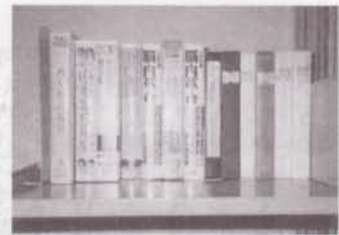
山崎 弘子 (愛岐ケ丘)
 山口 征雄 (大森台)
 藤井 慶八 (広見)
 日比野雅子 (広見)
 田代 正美 (桜ヶ丘)
 金子 正味 (今渡)
 今井 隆司 (桜ヶ丘)
 青山 澄子 (下恵土)



今年度の主な行事

- ☆ぬくもり懇談会
- ☆啓発活動
- ☆ミニ講演会
- ☆意識調査
- ☆各種研修会
- ☆人権講座
- ☆機関紙の発行
- 等

人権啓発センター
シンボルマーク



人権啓発推進員の皆さん (敬称略)

天野 弘子 (土田)
 今井 隆司 (桜ヶ丘)
 内野登代子 (若葉台)
 可児 徳子 (淵之上)
 小森 良美 (中恵土)
 斎 清喜 (大森台)
 白石 沙弥子 (土田)
 鈴木 正子 (桜ヶ丘)
 長尾 雅子 (今渡)
 畑 幸子 (桜ヶ丘)
 星野 広典 (久々利)
 山口 征雄 (大森台)
 渡辺 町子 (下恵土)

マークの意味

センターの主題である「人」をデザインしたもので、人間が本来に大きくはばたく気持ちを表現しています。

子ども・女性・障害者など人権にかかわる図書及びビデオの貸出もしています。

ごあいさつ

明るく住みよい都市づくりは、私たち一人ひとりの願いです。この願いは、申すまでもなく、ものと心の両輪がうまく噛み合うことによって実現し得るものと考えます。とりわけ、人権は、目にするのできない心の問題であるだけに、日頃から人権感覚を磨いておくことが肝要であります。

幸いにして本市では、平成3年12月7日に「心豊かな活力とうるおいのある住みよい都市(まち)・可見」の実現を目指して「人権擁護都市」を宣言し、同時に可見市人権啓発センターを設置、今日に至っております。

可児市長 山田 豊

センターでは、市長さんのごあいさつにあります様に市民の皆さんと共に、地域に根づいた人権の啓発と意識化に努め、ぬくもりの感じられるまちにしたいと願っています。

天使の笑顔

障害を持って

生まれてきたけど

そんなにステキに

笑われちゃうと

そんなこと

どうでもよくなっちゃう

(岩崎結華作)

「ありがとう」より



編集後記

二十一世紀まで、まだ七ヶ月余りもあります。

▽「あと七ヶ月しかない」と考えるのと随分感じが違います。

▽人生すべからずプラス思考で生きたいものです。

▽高齢者との「ぬくもり」懇話会でプラス思考の方が多いに勇気づけられました。

▽みなさんの「ぬくもり」への投稿をお待ちしています。